

【様式 1】

調査年度	平成 24 年度
調査タイトル	海外における地域づくり活動支援関連施策に関する調査
<p>1 調査の目的と背景</p> <p>「地域通貨」やこれを活用した「マイクロファイナンス」の海外における成功事例として、フランス・トゥルーズ市の地域通貨「SOL ヴィオレット」、ドイツ・バイエルン州の地域通貨「キームガウアー」の取組に関する事例調査を行い、わが国で実施する場合の課題等を調査した。</p> <p>2 調査方法、体制</p> <ul style="list-style-type: none">・国内における地域通貨に関する有識者へのヒアリング調査・海外の関係機関に対するヒアリング調査 <p>3 結果概要</p> <p>【SOL ヴィオレットの現状・課題・導入効果】 加盟店舗・企業の数や業種が限られているため、地域通貨を活用した企業間（B2B）の取引を促すことが難しい。地域通貨の導入に関する意義を若者に教育していくことが重要である。（未実施）地域通貨を導入したことで、これまでには得られなかったユーロ建ての預金を新たに生みだし、これを基に地域のために起業したいと考える起業家の卵に対する融資として使われている。</p> <p>【キームガウアーの現状・課題・導入効果】 加盟店舗・企業に対して年会費制を採用して以降、加入者数の伸び悩みが課題。大学が地域になく、若者の一般会員を巻き込むことが難しい。ユーロと両替すると額面の3%がNPOに寄付される仕組みとなっており地域づくりに参加する意識の高い市民を育成することができた。</p> <p>【まとめ】 地域通貨のモデル・スキームを導入・運用することができれば、地域づくり活動団体への資金的支援の取組への地域の幅広い関係者の参加促進が期待できる。</p> <p>わが国においても、地域通貨は発行団体の認知度を向上させる有効な手段となると考えられるが、必ずしも地域のステークホルダーに等しく利用を促しやすいとは言えない等の課題も多い。</p>	
参考 URL 等	